

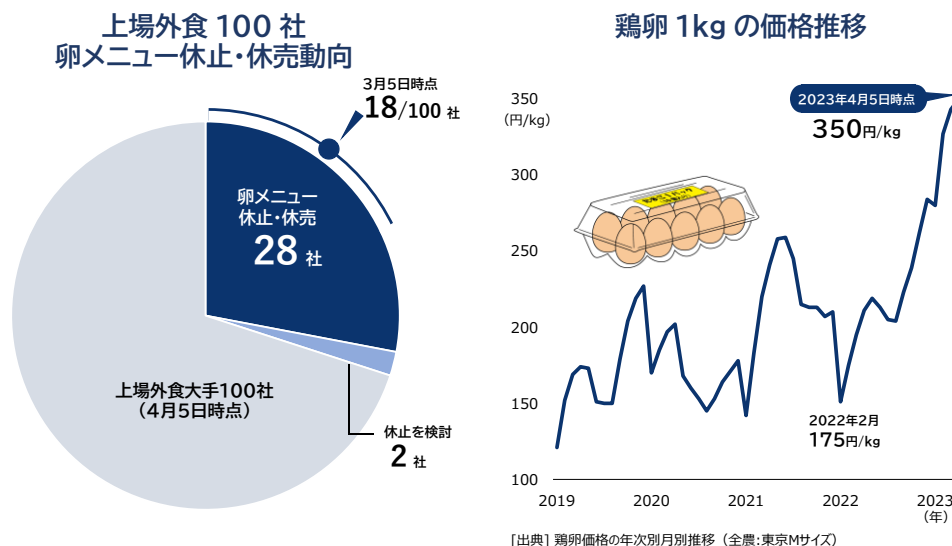
特別企画：「上場主要外食 100 社」卵メニュー休止状況調査（2023 年 4 月）

「卵メニュー」休止、外食大手の 3 割に拡大 調達難の影響深刻化

卵高騰で代替商品の提供など対応急ぐ

鳥インフルエンザの感染拡大に伴う卵の供給不足や価格高騰など、いわゆる「エッグショック」の影響が外食産業で拡大している。上場する外食大手 100 社のうち、2023 年に入って卵メニューの休止や休売に踏み切った、または表明した企業は、4 月 5 日時点で少なくとも 28 社に上ることが分かった。前月から 10 社が新たに判明し、中華料理やパンケーキ、茶わん蒸しなど、影響するメニューも広がりつつある。いずれのケースも、店先やホームページ、SNS などで「深刻な卵不足」「価格の高騰」を主な理由としていた。また、現時点で卵メニューの休止はしないものの、今後メニューの絞り込みなどで卵メニュー休止の可能性がある企業も 2 社判明した。

各社とも、加工用卵の輸入や代替メニューの開発など鶏卵不足への対応を急いでいるものの、鶏卵価格の供給減により「在庫確保量が非常に少ない」といった影響が出始めている。JA 全農たまごによれば、鶏卵 1kg（東京 M サイズ）の卸売価格は 350 円に達し過去最高値を更新するなど価格高騰も深刻化しており、卵メニューの取りやめといった動きがさらに広がる可能性がある。



[注] 各社発表（店頭開示含む）に基づく。対象は、季節限定などを除いた各社定番メニューを主体とした

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 藤井 俊

【問い合わせ先】 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。